

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		砂防(通常砂防)		路河川名等	(砂)栃平沢				
事業毎の通番		8	市町村名	筑北村	箇所名(ふりがな)	栃平(とちだいら)			
事業概要	事業目的	栃平沢は、土石流危険渓流であり、昭和34年の台風7号では甚大な土砂災害が発生している。近年災害は無いが、上流域には不安定な土砂が堆積しており、豪雨時など土石流の発生が懸念される。土砂災害警戒区域に指定されており、保全対象には人家22戸の他、県道河鹿沢西条(停)線等がある。 土砂災害を未然に防止するために砂防堰堤1基を施工する。							
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等	砂防法				
	関連する事業、計画等								
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家22戸、岩戸公民館、県道河鹿沢西条(停)線、村道立川線・岩戸線、林道栃平線							
	着手年度	平成29年度	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	平成32年度	費用対効果	4.3		国庫	その他	県債	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤(嵩上げ)工 1基 (H=28m, L=149m)			760,000	380,000		304,000	76,000	
年度事業内容(主な工種)	測量・設計・調査			20,000	10,000		9,000	1,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家22戸、岩戸公民館、県道河鹿沢西条(停)線、村道立川線・岩戸線、林道栃平線の保全							
	間接的効果(定量的・定性的)								
評価の視点	必要性	【保全人家戸数】 22戸 【保全公共施設】 岩戸公民館、県道河鹿沢西条(停)線、村道立川線・岩戸線、林道栃平線 【保全災害時要援護者関連施設】 なし 【避難場所】 岩戸公民館						評価	A
	重要性	【災害履歴】 昭和34年8月14日台風7号により土石流発生 【交通影響】 県道河鹿沢西条(停)線 【位置付け】 筑北村地域防災計画に位置づけあり(土石流危険渓流Ⅱ)						評価	A
	効率性	【費用対効果】 4.3 【早期効果発現】 事業期間:4年 【工法等比較検討】 堰堤形式比較検討 【総合調整】 松本地方事務所林務課の治山事業と計画調整 砂防で対応(保安林有)						評価	A
	緊急性	【地形地質】 地質が脆弱(第三紀層) 【流域植生】 倒木多数 【平均渓床勾配・土砂整備率】 勾配:約8.1° ・整備率:64% 【危険地区】 土砂災害警戒区域指定済(D23444015)						評価	B
	計画熟度	【情報共有】 関係者に事業計画を説明(H28.6.14)						評価	A
		【地域要望】 地元村長をはじめ積極的な要望がある(H28.6.16) 【地域合意】 事業目的及び整備手法について地域の合意形成が図られている(H28.6.19) 【住民参加】 自主防災組織による活動							
部意見	当該渓流の保全対象には、岩戸公民館、県道河鹿沢西条(停)線や保全人家も22戸が含まれているため、速やかな土砂災害対策が必要である。	行政改革課意見	流域内には不安定土砂が堆積し、今後の降雨等により土砂流出の恐れがあり、保全対象に人家、県道、村道、避難所があることから、必要性、重要性が認められる。	評価結果	○	総合評価	A		

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

位置図

平面図

全景

荒廃状況

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	栃平沢は、土石流危険渓流であり、昭和34年の台風7号では甚大な土砂災害が発生している。近年災害は無いが、上流域には不安定な土砂が堆積しており、豪雨時など土石流の発生が懸念される。土砂災害警戒区域に指定されており、保全対象には人家41戸の他、岩戸公民館、県道河鹿沢西条(停)線等がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	筑北村から、平成26年度の土砂災害防止法に伴う、警戒区域指定に当たり、土砂災害警戒区域に人家が存在するため、事業の要望を受けている。
③事業説明等の経緯	関係者に事業計画を説明み。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	—
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	今後周辺環境への影響を抑えることも観点に、設計・工法等の検討を行う予定。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により、溪流の安全度が高まり民生の安定が図られ、地域防災力の向上が期待される。
⑦その他	—

事業代表地点の緯度経度: 北緯:N 36° 40' 49.50" 東経:E 138° 04' 73.08"